

6 / 16 全国大会プレ企画第四弾 ～上森さくらお姉さまとの邂逅～

1. テーマ 「たまには理論的なことも学んでみない? ～BBQに釣られて～」

3月の渡辺講座、5月の塩崎講座と、実践的な話（実践家の話。参加者が聞きたい話）が中心。でも、岐生研は「明日の授業準備を5分でする団体」ではないはず。たまには、理論的な話を聞いてみてもいいんじゃないか。

あと、これは誤解を招きかねない表現かもしれないけれど、やっぱり女性の話を知りたい。「女性の講師」というのは、特に女性の参加者（生研じゃない人）にとって、なかなかよいんじゃないだろうか。新しい風を期待したい。というか、岐生研のおっさん率高すぎ。クマノミかよ。そういうわたしもはやおっさん秒読み開始！（井藤）



2. 講師 上森さくら先生（金沢大学）

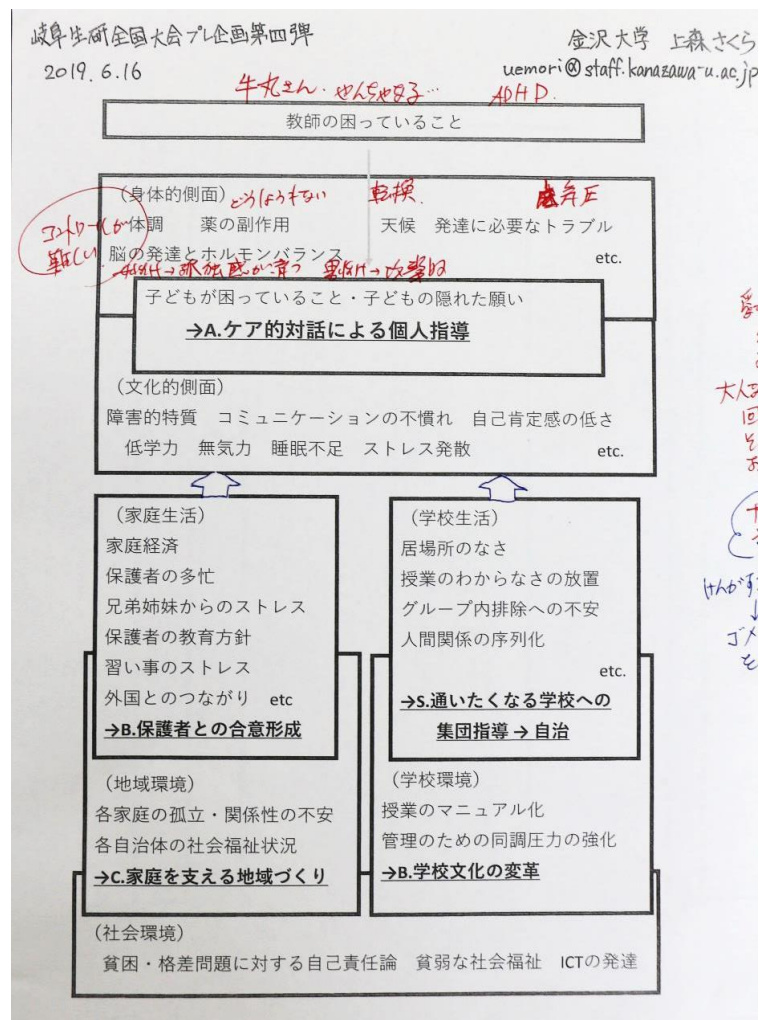
3. 講座内容

上森先生は、まず若い方たちに語りかけ「今、困っていること」を聞くことから始めた。

それは、「困っていること」をまず正面からしっかりと見つめてみようということ。そして具体的には、この図に埋め込むことで、もっと大きな視点から見ると、見えてくることもあるよということを示された。

「困った子は困っている子」という立場を入れ替えるという転換。さらにそれを身体的側面と文化的側面とより深く探り、子どもが困っていること・子どもの隠れた願いを「ケア的対話」によって明らかにしていく。

その場合、家庭生活（+地域環境）学校生活（+学校環境）というように見ていくとその裏に社会環境があり、より広い見え方が明らかになってくる。



教師の困っていること

(身体的側面)

子どもが困っていること・子どもの隠れた願い

→A.ケアの対話による個人指導

(文化的側面)

(家庭生活)

→B.保護者との合意形成

(地域環境)

→C.家庭を支える地域づくり

(学校生活)

→S.通いたくなる学校への集団指導→自治

(学校環境)

→B.学校文化の変革

(社会環境)

貧困・格差問題に対する自己責任論 貧弱な社会福祉 ICTの発達